



# ひなどり

園だより 6月号  
令和元年 5月29日  
新潟市立新津第三幼稚園

## 「ワクワクふれあいタイム」を始めて

園長 間嶋 哲

小学校に在籍していた私が、ずっと不思議さを感じていたことのひとつが、「なぜ幼稚園には、子どもの休み時間がないのだろうか」ということでした。「休み時間など、なくて当たり前」と考えることは簡単なこと。幼稚園では、保護者から直接子どもを預かり、お返しするまで間、ずっと担任の管理下に置かれています。つまり、そこには、狭い意味での自由時間はないのです。私自身が小学生の頃、例えばプール水泳で一番楽しかったのは、自由時間でした。学校生活の中でも、休み時間を心待ちにしていました。それはなぜかといえば、きっと、好きなことができたからだと思うのです。

休み時間というのは、単に「休む時間」ではなく、子どもたちにとって心が開放される時間です。小学生になると当たり前のようにある「休み時間」という時間帯。学校によっては、トラブルが起きやすい時間帯ということで短縮する学校もあります。私は、それは違うのではないかと思うのです。ちなみに新津第三小では、中休みが20分間、昼休みが45分間あります。本来楽しいはずの休み時間であっても、その時間になると戸惑う子どもが、少なからずいます。何をして良いのか困ってしまうのです。休み時間も、立派な教育活動の時間です。その中で、どのように友達と人間関係を作るのか、あるいは本当に好きなことに熱中できるのか。この点が大切なように思うのです。

そこで、5月13日から、幼稚園版休み時間として、『ワクワクふれあいタイム』を設けました。小学校の中休みに合わせて、10:00から始まります。同じ時間帯にした理由は、近い将来、小学生と自然に交流できたらいいなと思ってのことです。始めてみると10:00になるのを楽しみに待っているなど、予想以上に子どもたちからの評判はよいようです。

ところで、先日、新潟市教育委員会の計画訪問がありました。3名の指導主事が来園され、『ワクワクふれあいタイム』の様子もご覧になられ、皆さん絶賛されていました。ご指導いただく際に、その時間の意義として、以下の3つでまとめていただきました。

- ①異年齢交流が自然にできる。
- ②子どもの興味・関心が、今どこにあるのかが自然に見える。
- ③自主性が育つ。

①については、最初から目指していたものの、②や③については私たちが気付いていない視点でした。担任が知らなかった子どもの姿を、職員同士で語り合う幼稚園、つまり、全職員ですべての子どもの教育にあたる幼稚園を目指します。

